

犬のアレルギー性皮膚炎に対する治療における 飼い主満足度関連因子の探索

遠藤玲希央¹⁾ 大野耕一^{1),3)} 後藤裕子²⁾ 村上義孝⁴⁾ 富安博隆^{1)†}

- 1) 東京大学大学院農学生命科学研究科獣医内科学研究室 (〒113-8657 文京区弥生 1-1-1)
- 2) 東京大学附属動物医療センター (〒113-8657 文京区弥生 1-1-1)
- 3) 動物医療センターPeco (〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷 3-60-7)
- 4) 東邦大学医学部社会医学講座医療統計学分野 (〒143-8540 大田区大森西 5-21-16)



本文はこちら

(2022年3月29日受付・2022年6月17日受理・2022年7月15日公開)

要 約

犬のアレルギー性皮膚炎は継続的な治療を必要とする慢性疾患であり、飼い主の治療参加が必須となる。本研究ではアレルギー性皮膚炎の犬の飼い主を対象としたWEBアンケートを行い、飼い主の治療満足度と関連する因子を検討した。544件の有効回答を解析した結果、17項目が高い治療満足度と有意な関連を示した。これらの項目には、臨床症状の改善に関連した項目の他、飼い主が治療に用いる時間的負担の軽減や高い世帯年収が含まれていた。この結果から、減感作療法などの時間的負担が大きい治療を実施するには丁寧なインフォームが必要であると考えられる。また、世帯年収と治療満足度の間に関連が認められたことから、今後より幅広い飼い主を対象として、飼い主の社会的立場などの因子と治療満足度との関連を検討する必要があると考えられた。

——キーワード：アレルギー性皮膚炎，犬，治療満足度，アンケート調査。

-----日獣会誌 75, e157～e164 (2022)